街歩き同好会

第１回　　熊本に縁のある
蘆花恒春園を中心に散策

「ウオーキング」　世田谷文学館と蘆花恒春園その他烏山の寺町数ヶ寺

日時　11月15日（土）

京王線　芦花公園駅　集合　AM10：00

芦花公園駅 ——→世田谷文学館——→蘆花恒春園——→水際の散歩道
———→京王線烏山駅——→烏山のお寺数ヶ寺（幸龍寺・称往院など）——→
京王線烏山駅

烏山には大正の大震災で焼失した都内（上野・芝・浅草など）の寺が昭和の初めにかけて26ヶ寺移転して来ています。

このうち「清正公に縁のあるお寺」や通称「そば切り寺」などを時間の許す範囲で訪ねます。解散15：30～16：00頃

世田谷文学館入場料　一人200円（65歳以上100円）

芦花恒春園は無料

蘆花恒春園内で食事とします。弁当をご用意下さい。

KEIO 芦花公園駅 公共通路

蘆花恒春園

東京都指定史跡

徳冨蘆花旧宅

所在地　世田谷区粕谷一丁目二十番一号

指　定　昭和六十一年三月十日

徳冨蘆花は、肥後国葦北郡水俣村手水（現在の熊本県水俣市浜ノ浦）に代々惣庄屋を勤めた徳冨家の三男として明治元年（一八六八）十月二十五日（旧暦）に生まれた。名は健次郎。兄は猪一郎（蘇峰）である。明治三十一年から翌年にかけて『国民新聞』に連載した長編小説『不如帰』が明治文学の中でも有数のベストセラーとなった。

明治四十年（一九〇七）二月二十七日青山高樹町の借家から、北多摩郡千歳村字粕谷のこの地に転居した。トルストイの示唆を受け、自ら「美的百姓」と称して晴耕雨読の生活を送り、大正二年（一九一三）六年間の生活記録を『みみずのたはこと』として出版、大正七年（一九一八）には自宅を恒春園と名付けた。昭和二年（一九二七）七月伊香保に病気療養のため転地するが、同年九月十八日駆けつけた兄蘇峰と会見したその夜に満五十八歳で死去した。墓所は旧宅の東側の雑木林の中にあり、墓碑銘は兄蘇峰の筆による。

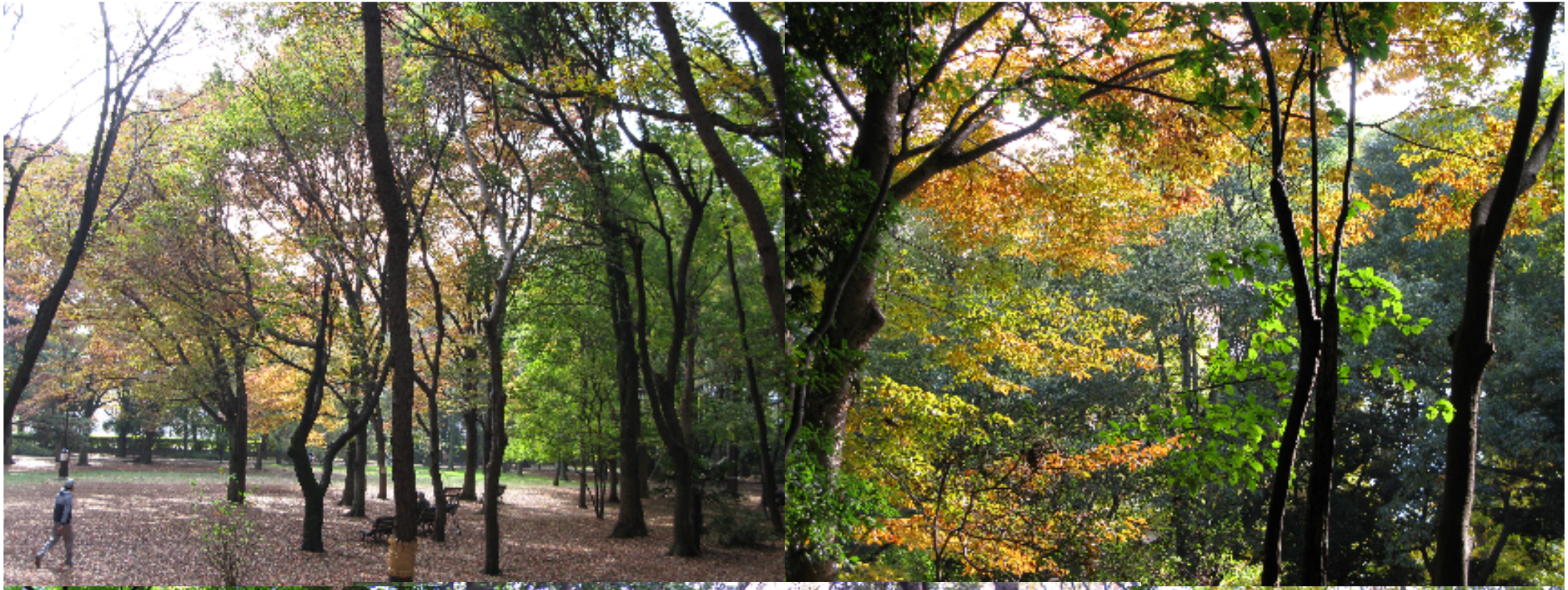
昭和十二年（一九三七）蘆花没後十周年に際し愛子夫人から建物とその敷地及び蘆花の遺品のすべてが当時の東京市に寄付され、翌年二月二十七日「東京市蘆花恒春園」として開園した。

この旧宅は、母屋、梅花書屋、秋水書院の三棟の茅葺き家屋からなり、これらは渡り廊下によって連結されている。「美的百姓」として生きた蘆花の二十年間にわたる文筆活動の拠点であり、主要な建物は旧態をよくとどめている。

平成十四年三月二十九日

東京都教育委員会

母屋



烏山交番横通り
とんかつ
肉サガミミート
ヤマケイプレコン株
烏山支店
2・3F
肉サガミミート
1F
烏山交番横通り
KOBAN
特選和牛
豚・鳥
サガミ・ミート
ヤマケイプレコン株式会社
烏山支店
寺町通り